



林良博さん プロフィール

東京大学卒、農学博士。ハーバード大学客員研究員、コーネル大学客員助教授、東京大学教授を歴任。2010年に山階鳥類研究所所長、我孫子市鳥の博物館名誉館長、2013年に国立科学博物館館長に就任。

人と鳥の



▲コウノトリ飛翔 市内北新田にて(平成17年1月撮影)

地域の連携で守る

市長 兵庫県の豊岡市や能登半島の方にも行ってましたね。
所長 コウノトリというのは縄張りというか、ある程度のテリトリーがないといけません。
市長 ムクドリもあれだけ集まると子どもから怖いって言われますからね。
所長 近隣の野田市で昨年3羽のコウノトリを放鳥しました。
市長 豊岡で放鳥したもので一番遠くに行ったのは奄美大島です。
市長 もう10年くらい前ですか、我孫子の北新田にコウノトリが来て、田んぼでエサを食べているところを写真で見ました。
市長 豊岡で放鳥したもので一番遠くに行ったのは奄美大島です。
市長 もう10年くらい前ですか、我孫子の北新田にコウノトリが来て、田んぼでエサを食べているところを写真で見ました。
市長 豊岡で放鳥したもので一番遠くに行ったのは奄美大島です。
市長 もう10年くらい前ですか、我孫子の北新田にコウノトリが来て、田んぼでエサを食べているところを写真で見ました。

市長 若いうちはあつちに行ったりこつちに行ったりふらふらするんですかね。何か人間に似ていますね。
所長 大人になってもなかなか落ち着かない人もいますけどね。
市長 昨年のJBFの時に、リトアニアの大使がコウノトリはリトアニアの国鳥ですという話をしていました。
所長 向こうではかなり数が多いんです。コウノトリはどの国でもイメージがいいですね。

市長 JBFに毎年来てくれる小笠原の人たちがアホウドリのデコイをブースの前に飾っていましたね。
所長 山階は研究所ですの、やはり保護活動とか保全活動は、そこにいる地域の方たちが主体となってやることが重要で、山階としては後ろから応援するというスタンスでやっています。
市長 そうですね。沖繩のヤンバルクイナ、佐渡のトキ、豊岡や野田のコウノトリ、そしてアホウドリにしても、山階鳥類研究所の学術的な裏付けのバックアップがあるんですよという話をすると、そういう

研究所が我孫子にあるんですかと言われますね。
所長 ありがとうございます。やはり研究所は研究的なところから応援するというスタンスが一番いいんじゃないかなと思います。広報活動もきちんとやっています。
市長 最後にありますが、林さんの今年の抱負は。
所長 山階鳥類研究所も我孫子で再スタートさせていただき、本当にいい環境で研究を続けさせていただいています。一昨年、昨年と日本人があれだけノーベル賞を取りました。バイオミメティクス(※2)という分野があるんですが、鳥も今、大きな注目を浴びています。鳥の飛び方もその一つです。非常にエネ

ルギーを使わない飛び方ができるんです。それから羽毛の色ですが、構造色といまして、人の着る衣服にあの技術を応用できたら華やかな衣類ができるんじゃないかと。すでに開発も始まっています。そういうことを研究している研究者も山階に出てきました。山階発で鳥の保全に加えて、こうした新しい鳥の役割などを発信できたらいいなと思っています。
市長 私の抱負は、市民の皆さんが我孫子に住んでよかった、これからもずっと住み続けたいと思ってもらうことです。財政的には非常に厳しいので、事業の優先順位をきちんと付けて、ニーズに合わせてやっています。特に子育ての政策は、長期のビジョンというより、若い世代の皆さんが何を求めているのか敏感に察して、必要であればどんどん変えていこうと思います。この水辺を大切に落着いた環境の中で子育てをしやすいまちにしたいです。市の基本構想でも将来都市像を「手賀沼のほとり、心輝くまち／人・鳥・文化のハーモニー」としています。人と鳥の共存をめざしたまちづくりを進めていきたいと思えます。今日は、大変お忙しいところありがとうございます。
所長 こちらこそありがとうございました。

市長 我孫子は鳥の博物館を持ち、また鳥で知名度やイメージを上げていくことはいいですね。
市長 今の地方創生に絡めて、どのような話の中で、我孫子として水鳥、野鳥が生きやすい環境を守っていくこと。鳥が生きやすい環境は人にとつ

ても生活しやすい。水や緑は人が生活していく上で、心にゆとりや安らぎを与えてくれます。大正から昭和にかけて、白樺派の文人たちが執筆活動をしていましたし、最近では昨年本屋大賞を受賞した上橋菜穂子さんも、手賀沼周辺を散歩して気分転換するとおっしゃっていました。

市長 そうですね。沖繩のヤンバルクイナ、佐渡のトキ、豊岡や野田のコウノトリ、そしてアホウドリにしても、山階鳥類研究所の学術的な裏付けのバックアップがあるんですよという話をすると、そういう

市長 最後にありますが、林さんの今年の抱負は。
所長 山階鳥類研究所も我孫子で再スタートさせていただき、本当にいい環境で研究を続けさせていただいています。一昨年、昨年と日本人があれだけノーベル賞を取りました。バイオミメティクス(※2)という分野があるんですが、鳥も今、大きな注目を浴びています。鳥の飛び方もその一つです。非常にエネ

ルギーを使わない飛び方ができるんです。それから羽毛の色ですが、構造色といまして、人の着る衣服にあの技術を応用できたら華やかな衣類ができるんじゃないかと。すでに開発も始まっています。そういうことを研究している研究者も山階に出てきました。山階発で鳥の保全に加えて、こうした新しい鳥の役割などを発信できたらいいなと思っています。
市長 私の抱負は、市民の皆さんが我孫子に住んでよかった、これからもずっと住み続けたいと思ってもらうことです。財政的には非常に厳しいので、事業の優先順位をきちんと付けて、ニーズに合わせてやっています。特に子育ての政策は、長期のビジョンというより、若い世代の皆さんが何を求めているのか敏感に察して、必要であればどんどん変えていこうと思います。この水辺を大切に落着いた環境の中で子育てをしやすいまちにしたいです。市の基本構想でも将来都市像を「手賀沼のほとり、心輝くまち／人・鳥・文化のハーモニー」としています。人と鳥の共存をめざしたまちづくりを進めていきたいと思えます。今日は、大変お忙しいところありがとうございます。
所長 こちらこそありがとうございました。



▲手賀沼と周辺の緑

※1 メタ個体群…複数の個体群(ある一定範囲に生育・生息する生物1種の個体のまとまり)の集まり
※2 バイオミメティクス…生物の構造や機能にヒントを得て、人工物に応用する技術